

作付は目標達成

～作柄は平年並みで全国作況指数100

農水省は9月15日時点の全国における今年度の水稲の作付状況と作況指数を発表している。主食用品種における作付面積は137万haとなり、目標値である自主的取組参考値138.7万haよりも3年連続低くなった。ただし、全都道府県で達成された訳ではなく、福島・茨城・埼玉・千葉・神奈川・新潟・長野・静岡・愛知・奈良・高知が作付超過状態となっている。また、全国で主食用米以外の戦略作物（加工用米・米粉用米・飼料用米・WCS・備蓄米・米・大豆・醸造用米・輸出用米・飼料作物・そば・なたね等）への作付変更が進んでいる。飼料用米への作付面積については平成28年度が9.1万haに対して今年度は9.2万haと増加しており、直近3年間の数値では備蓄米と麦以外は全て作付が増加している。

今年の稲作においては、全般的に移植期から出穂期前までは天候はおおむね恵まれ平年比よりも前進して生育が進んだものの、梅雨明け以降には例年になく長雨と日照不足により生育にブレーキがかかり登熟についてはやや不良と示す県が多く、作況指数は全国で100、平均収量は全国で10a当たり534kgとなっている（9月15日現在）。9月15日現在の速報値で主産地の東北・北海道はまだ収穫最盛期を迎えてないため最終結果はまだ数値がブレる可能性はある。

昨年は豊作で作況指数が103となったため前年比では全国平均で10kgダウンの見込みとなった。作況が100を超えた地域は北海道、四国、中国、九州。一方で作況指数100を切る県は北から青森、秋田、新潟、栃木、埼玉、静岡、三重、香川、沖縄となっている。今年、作況指数が100を切る県においては出穂期に大雨に見舞われた地域や出穂後に日照不足となったため、登熟不足による屑米発生率が例年よりも高いという報告を受けている。場所によっては中米仕上げにならず本当の屑米の発生率のほうが高いとの声も聞かれている。この影響からか、29年度産の新米は相対相場価格で全体的に1俵あたり1,000円前後前年よりも相場があがっているようだ。9月末に行われた日本コメ市場とクリスタルライス共催の取引会では相対相場価格よりも高値で取引されており、古米の在庫がない事と作況指数並みに取れてないという情報から価格が独り歩きしているように見える。また、屑米もキロ当たり120円前後で取引がされている状況。B銘柄も値上がりしているため主にB銘柄需要者向けにこの屑米がブレンド用で流れているのではないかと、との話も聞こえてくる。一方で、全く売れてないのが糯米だ。糯米は利用場面が限られているためか昨年の豊作が影響してダブつきが酷く、新米でも捌くのに苦労する話が多く聞こえてくる。

毎年天候が左右し前年持ち越し在庫と作況が価格に反映するコメ。今年はコメが足りなくなると見込んで米問屋は生産地の現場まで買い付けに足を伸ばす動きが活発化しており、コメの確保に躍起となっていたようだ。生産者にとって、昨年よりも取れてないという声が多いものの米価は値上がり基調で推移しているため大きくは悪くない年なのではないかと思われる。しかし、コメを仕入れた業者が実際に流通に流そうとしても価格が高いため動きがよくないとの話が多く聞かれるようになってきた。産地で上昇した価格をどれだけ消費段階に転嫁できるか、転嫁できたとしても消費量の更なる低下を招くことは必至で平成30年を迎え注視する必要がある。

産地紹介 愛知県愛西市 レンコン

レンコンの一大産地として知られる愛知県（収穫量は全国4位（平成28年））。特に木曾川下流域にある愛西市は、土質がレンコンの栽培に適している。江戸時代から生産され、県内生産の約95%を占める。今回、当社特約販売店の師定耕及び榊渡辺肥料店のご紹介により、愛知県愛西市のレンコン農家である鷺尾（わしお）夫妻に話を伺った。鷺尾氏はレンコン単作3haを夫婦で切り盛りされている。元々干拓地であった同地で水稻も作っていたが、海が近い事から塩害に悩まされ、それからレンコン単作に切替えレンコン一筋40年になる。栽培品種は、従前まで多収量性のある長茎晩生品種「備中（びっちゅう）」が主であったが、腐敗病、台風

被害（晩生品種の為）に悩まされていた。現在は耐病性が強く、日持ちがする長茎早生品種「ロータスホワイト」へ主に切り替え、作付面積の3分の2（2ha）で栽培している。地域的に砂質土壌が多い為、収穫方法は「くわ掘り」が主。これは収穫時に田の水を抜き、レンコン畝の3分の2を収穫。残った3分の1の畝の地下茎を来年度の種として残す方法（定間隔で畝を残して掘る事から「筋掘り」とも呼ばれる）。また近年では地域の若手農家が他産地の優良品種を熱心に研究している。鷺尾氏は彼らと情報交換し、耐病性のもつ多収性品種「金澄（かなすみ）20号（主産地は茨城、千葉）」、「清



レンコン農家 鷺尾氏と収穫前のレンコン田

秀（せいしゅう）8号（主産地は佐賀県）」を近年より導入。これらは「水掘り」という粘土質土壌が多い茨城、佐賀などで主流の方法で収穫。前述「くわ掘り」と比べレンコンを掘り出し易い反面、収穫時に利水できる地区に限られ、10月以降の収穫時が寒い事、出荷前処理（ひげ根切り等）の手間がかかる等の作業性の課題もあるとの事。レンコン農家にとって「腐敗病（高温多湿条件下で多く現れ、葉が枯れや地下茎が腐敗する病気）」への対策が永遠のテーマとの事。鷺尾氏としては、土地（地力など）の良し悪しや天候（夜温、日照時間、台風有無）に収量左右されるが、特にこの「腐敗病」にならない様、新品種含めた耐病性の強い品種の選定、圃場管理（肥料選定含む）に注意を払われている。中国ではレンコン（地下茎）は勿論のこと、葉や花、果実、おしべ、種子など全てを漢方薬として使われている。レンコンは食物繊維（便秘解消）、ビタミンC（美肌効果、免疫力向上）、ムチン（疲労回復、抗ウイルス作用）、タンニン（整腸作用、花粉症抑制）を多く含み栄養価が高い野菜。調理法としては油との相性が良く、きんぴらや天ぷら、煮物、炒め物など、アク抜きすれば生でも食べられる万能食材。



愛知県愛西市のレンコン

今が旬のレンコン。秋は何かと体調を崩し易い季節でもあり健康増進に食べてみては如何でしょうか？

10月中旬を過ぎてから列島を直撃した台風21号による大雨の影響で、各地で被害が発生しました。稲刈り直前だった田んぼも冠水しているようです。10月に入ってから日照時間も平年の7割程度の地域が多く、また降雨量は多くなっています。収穫期を迎える農作物への影響が心配です。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>